

希学園 第410回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第410回公開テスト 小6国語 解説動画(2026年7月12日実施)	https://vimeo.com/1208981672/5cb26e955c

1 a 開放 b 親和 c 包容

2 A 才 B 群 C あ 3 I 日本 II 大量消費社 (完答)

4 当時の日本 5 エ 6 ○ 7 (記述題)

8 手書きより 9 今の 私 は、ワ ー 11 エ

2 1 a 関 心 b 事 務 c 周 り

2 イ 3 A 才 B ば C あ D 二

4 I イ II 才 III エ IV ア 5 (記述題) 6 エ

7 (記述題) 8 イ 9 ア 10 エ

1 手書きからワープロに変えろと、文章の質が 7 変わってしまいかもしれないという心配。

2 仕事にあまり乗り気でない風汰が、働いてまだ半日なのに、 5 しおん君の名前を覚えていたので意外だったから。

7 仕事中に寝てしまった風汰を起こそうと思っ 7 たが、保育園で眠ったことがないしおん君が 眠っているのを見て驚いたから。

〔配点〕	
1	1
7	2
2	2
5	1
7	3
各4点×14＝56点	各2点×13＝26点
各6点×3＝18点	

① (釘貫亨『日本語の書き言葉はどう変わってきたか』より) ※設問の都合により一部表記を変更しています。

- 1 a 「開放」はあけはなすこと。「一般の目に触れる」とあるので、広くあけはなされていたのである。「解放」「快方」などとの区別を確実につけておこう。b 「親和」は親しみ結びつくこと。c 「包容」は包み入れる、受け入れること。
- 2 A 「オンパレード」：物事がずらりとならぶこと。B 「群を抜く」：多くの中で、飛び抜けてすぐれている。C 「あたかも」：ちょうどそのとき。「まるで」と同じ意味で使うこともあるが、「時あたかも」の場合はこの意味になる。
- 3 「商業広告」が何の反映か、と考える。直前の文の「日本は大量消費社会に入った」というところを指している。
- 4 「役所と男性知識人の書斎に封じ込められて」という部分である。傍線部、解答箇所いずれの部分についても主語は「カタカナ文(語)」となっている。「各種公文書」は「役所」に「封じ込められて」いたし、「男性知識人の日記、備忘録」は「男性知識人の書斎に封じ込められて」いたのである。これを傍線部では「隠れて存在した」と述べていた。
- 5 「あてはまらないもの」である。問4でもあったとおり、「男性知識人の日記」はカタカナ文であった。
- 6 I：「気にした」：↓しかし↓「まもなくやり過ぎしてしまった」。II：「その原因について考えてみることはなかった」↓しかし↓「無視できないと考えるようになった」。III：「これから手書きよりワープロを選ぶ」↓しかし↓「今のところ：手書きを維持している」。したがってすべて「しかし」が入る。
- 7 「これは異とするに足りないと思ったのか」の「これ」が指しているものである。言うまでもなく直前の文の内容であるから、それを字数内でまとめればよい。
- 8 「その」が指している内容は「文章を書くということに対する抵抗が大幅に軽くなった」という部分である。次の段落に「この点が文章を書くことへの抵抗を軽くすることは間違いない」とある。この文の「この点」が指している内容が「原因」である。
- 9 傍線部を含む一文を読もう。「若い人たちの漢字書き取り能力の低下は、先にあげた理由によって当面心配に及ばない」となっているので、「今のところ：手書きを維持している」という内容が理由としてびたりと合致する。
- 10 前半はひらがな主体の言文一致の文章の歴史について。後半はワープロの話である。
- 11 ア：「一切見られなかった」は言い切れない。イ：おそらく「学術論文」のほうが先である。ア・イのどちらも「このような状況は学術論文では、二十世紀のはじめ頃までさかのぼるのではないだろうか」という言葉からほぼ否定できる。ウ：「実用性という点で優れていなかった」というところが本文の「実用性という点で優れた入れ物」という部分と矛盾する。エは本文最後の三行を読み解けば必然的に出てくる内容である。

② (いとうみく『天使のにもつ』より)

- 1 a 「関心」は「興味」の類義語。「感心」「寒心」との区別は確実につけておこう。b 「事務」は難しくはないが、「務」の形は正確に書くように注意しよう。c 「周り」は「周囲」。この意味の場合、普通「周り」と書き、「回り」とはしない。
- 2 場面を具体的にイメージし、正確に説明しているものを選ぶ。「ごちそうさまいってない!」と子どもに指摘されて、「……ごちそうさま」と素直に言った風汰を見て林田は笑っていたのである。アは「保育士の仕事をバカにしていた」というのが「林田」が認識していたかがわからない。ウは「学んでいる」が不正確。別に食後に「ごちそうさま」を言うことを風汰が知らないわけではない。エは職場体験に対して後ほど疑問を述べている林田の感じることとしてはおかしいだろう。
- 3 A 「オーラ」：人や物が発する独特な雰囲気。B 「汗ばむ」：汗がにじみ出てからだがじつとりとする。「ばむ」は「う」の様子がある「あられる」などの意を表す接尾語。「黄ばむ」「気色ばむ」など。C 「あいまい」：態度や物事がはっきりしないこと。D 「二つ返事」：気持ちよく、すぐに承諾すること。
- 4 I 「ぱちりと」：目をしっかりと開いているさま。II 「ごろんと」：寝転ぶさま。III 「ふんわりと」：この場合、やわらかく気持ちのよい風の様子を表している。IV 「がくりと」：気力が急におとろえるさま。
- 5 直後に園長が「名前、覚えてくれているのね」と言っている。驚いた理由を説明する際には「意外であること」を説明すべきなので、「半日しかたっていない(職場体験初日である)」は入れておきたい。意外性を説明するために「まだ園児の名前を覚えているはずがない」と思っていたのに、覚えていたから」という形が典型的だが、「意外だった」という言葉で直接説明してもよいだろう。
- 6 「指さした」という行動から、林田先生に見せたい、という気持ちはおさえるべきである。そうするとウは内容面で不足がある。園長は、子どもたちにとっても、体験に来る中学生にとっても、自分たちにとっても何か得るものがあるということをふまえて「ほら」と言っているのだ、それがしっかりと表現できており、かつ最後に言った「わたしたちだって」にあたる「自分たち」が「風汰」から得るものがあるということにも林田先生に気づいて欲しいというウエイトが最も大きいエが適切と言える。
- 7 一度も保育園で眠ったことがないしおん君が眠っているのを見て驚いたから手を止めたのだが、「『ちよつと』とドアに(手を)伸ばした」行動の意味も解答に入れておく必要がある。
- 8 今日の仕事が終わる、というタイミングで「今日一番の笑顔で、一番の返事をした」のである。仕事が終わることを露骨に喜んでいることにいらっているのである。
- 9 風汰を「おもしろい子」ととらえている園長の職場体験に対する考え方などからアが導ける。
- 10 問6や問9に関連する箇所からも、園長の人柄がエの通りであるとわかる。アは「子どもが嫌い」、イは「大人に対する失礼な態度だけ」(子どもへの発言も諷刺していた)、ウは「大人に対しては心を閉ざしている」がそれぞれ誤りである。